

富山県バスケットボール協会 審判委員会

審判委員長挨拶

今年度より、前構富士雄審判委員長の後を引き継ぎ、大役を担うこととなりました玉木彰治です。審判総会時にもお話を申し上げましたが改めてここで皆さんにご挨拶を申し、富山県審判員の結束と活動に対するご協力をいただきたいと存じます。



さて、一部報道にもありますように、混迷する日本協会の現状とbjリーグの華やかな活動そしてプロチームを抱えそれをバックアップしようとする県協会の背景が現実の中、我々アマチュアバスケットボール審判員の毅然たるスタンスや方向性の確立が望まれるときにあります。

あくまでも

県民の(バスケットボール愛好者)の支えとなれる立場にいること。

アマチュアの審判員であるということ(利益・不利益を追求しない)

日本バスケットボール協会審判部傘下の組織であるということ。

常にニュートラルで公平な存在でいられること。

であると考えます。

日本協会が混迷していること...それは傘下にいる我々にとって不安な材料であります。富山県においてbjリーグが盛り上がりバスケットボール愛好者が増えること...それは喜ばしいことであります。しかし、我々審判員が行うべきことは、我々がいる存在の意義は、そこにバスケットボールをしようとするプレイヤーが居るときに必要とされていて公平にジャッジをすること、ゲームをスムーズに運営するということです。

つまり、言いたいことは、環境の変化に対応する力は大切ですが、あくまでも「自分を見失わないこと」ここにあります。富山県のバスケットボールプレイヤーのためにバスケットが大好きな人たちのためにそして日本のバスケットボール界発展のために、審判員として心をついに「ゆるがずに強く」がんばっていくことと思います。

今後も高校総体や中学選手権大会、ミニバスの県大会など多くの県内大会が予定されておりますが、ここにあらためて皆さんにご協力をお願いし、各種大会が成功する一助となるよう頑張っていきたいと考えております。まずは一期精一杯頑張らせていただきます。

よろしく願いいたします。

1 平成19年度審判委員会方針

(1) 審判員としての心構え・技術の向上

ア．公認審判員の指導体制の見直し(研鑽意欲の向上)

* 日本公認指導者の各種大会への積極的登用

イ．上級審判員の育成および強化

* 日本公認A級およびAA級審判員の育成

ウ．審判協力体制を確立する取り組み

* インターネット活用の促進と連絡体制の見直し

エ．日本協会派遣講師による実技講習会

* バスケットボール技術や戦術そしてルールに絡む研修会

オ．日本公認審判員の公式大会審判規定数を策定

* 年間20ゲーム以上、カテゴリー外の公式ゲーム3ゲーム以上の義務化

(2) 県外大会への派遣支援

審判技術向上のための県外研修制度(初年度、2年度、5年度)

関東・関西などレベルの高いゲームを求めての派遣

2 平成 19・20 年度審判委員会 組織体系及び役員

* : 審判委員会選出理事



3 富山県審判委員会 19年度 重点審判員

北村 将人 (29歳)
 惣万 直樹 (28歳)
 一ノ谷 聡 (26歳)
 谷口 裕嗣 (23歳)
 河嶋 忠志 (21歳)

* 19年度 北信越重点審判員

北村 将人 (29歳)
 谷口 裕嗣 (23歳)

4 連絡事項 (*注意していただきたいこと)

● 各種大会における審判員の喫煙について

喫煙の自由についての制限はありませんが、審判控室においては厳禁であります。また、ゲームインターバル中はコートから離れるときがあった場合について観客およびプレイヤーの见えない場所での配慮をお願いいたします。(原則禁止)

試合開始前や試合後の共同喫煙場所については、細心の注意を配慮ください。

レフェリーカッター等の服装で喫煙をしないこと。

試合前に一方のコーチとの談笑の環境を作らないこと。

上記2点についてご注意ください。

われわれがどんなに公平に審判を心がけても観客やコーチ・プレイヤーには決してよくは映りません。円滑なゲーム運営の一端と理解し、ご協力をお願いいたします。